

刻む会

たより

No. 19

1999. 04. 26

長生炭鉱の“水非常”を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市常盤一―一九

☎〇八三六(二一)八〇〇三

第8回長生炭鉱の

“水非常”犠牲者追悼式 について

山口武信

今回は、昨秋韓国遺族

会会長が金亨洙氏になって初めての追悼式となった。当初、ピザの発給、人員の選定で、来日の方々の確定がいつも年の年比べて、大変遅くなった。しかし、県の協力を得てギリギリの処で解決を見た。初め八名ということであったが、最終的には一三名という今まで最多の遺族の来日となり、関

釜フェリーも一隻だけの

運行のため、今まで二泊

三日であった処が、三泊

四日の日程になり、大変

窮屈な人員の割振りとなった。

一月三〇日(土)、追

悼式当日は九時には西光

寺に遺族と共に着いたが

今年は暖房などお寺のご

好意がありがたかった。

位牌を並べるのも遺族の

人々と一緒に並べたので、

お爺さんの位牌を自分の

手で並べられたと感激さ

れる遺族もあった。今年

変わったこととしては、

婦人の中に本堂の扉を自

分で開いたり、香を焚い

たり、金銭を供えたりさ

れる方があったことであ

る。

一時三〇分から遺族の

方々とともに敦煌常盤店

で昼食をとった。皆が食

事をしている処に、追悼

式に続いて講演をお願い

してあった飯塚市の秋来

善氏ら三名が到着された。

小郡で中国道を下りて道

を迷ったそうである。

今年の第8回追悼式は

韓国遺族会から、金亨洙

新会長以下男性七名、女

性六名の計一三名、京都

から李元宰氏とお嬢さん、



時に花をささげめい福を祈る遺族たち

舟木から松山さんの合計一六名の遺族の方々が参加された。その外参加者には、岩村実市議协会会长(日韓親善協会会長)、伊藤日韓親善協会事務局長、金民団会長、沈朝鮮総連委員長、県及び市から担当課長らが出席された。地元からは旧長生炭鉱職員のご子息鶴田氏、遠くは島根県、広島県からも澄田先生外の出席があった。

今回は潮の具合も良く、波もなく、かつて無い好天氣に恵まれて追悼式は行われた。追悼式用のサンボを一〇組新調し、遺族の松山さんと、会員の鄭さんの二人の方にチェーサーの供物と飾り付け全般を見て頂いた。宇部市からは花束が届けられた。

一三時五分、井上洋子さんの司会で開式。通訳は例年通り夏基秀氏。代表挨拶・金亨洙遺族会会長挨拶・追悼碑文の朗読・アリラン外合唱・弔辞朗読・全員による献花と式は順調に進んだ。

特に弔辞は人々に深い感銘を与えた。遺族の手になった文を遺族の婦人の一人韓在輝さんが朗読した。今回は初めて婦人によって朗読されたが、声も確りと、その一言半句は哀悼の詩として、悲しみと悔しさが、聞く人の心に迫り、胸を締め付ける。また、このような愚かな非人間的行為を行った者たちの許しを乞う優しさと、死者への祈りは、彼等の理性を表すものであろう。

に泣き崩れる人々も私達の涙を誘わずにはいかなかった。

私達は一日も早く碑の建立を急がなければならぬことを、自らの目で改めて確認することになった。

今回の追悼式は土曜日の午後早い時間から行ったので、時間的に参加することができなかった人があったと思われるが、参加者が少なかつたことは反省すべきことだと考えられる。

講演会

(一五時〜一七時)

講師： 夏来善氏

(在日筑豊コリア強制連行犠牲者納骨堂追悼碑建立実行委員会代表)

夏来善氏の講演は、その体験と実践を通じて大変示唆に豊むものであつ

た。自らの二度にわたる強制連行の体験と後の強制連行犠牲者納骨堂追悼碑建立のための組織作りと官公庁へのアプローチの仕方など、有意義であった。遠方から日帰りの強行日程にも拘らず来宇されたことに満腔の謝意を表するものである。

この日の質疑応答の折に歴史認識の問題から思わぬ混乱がその後の交流会まで尾を引いたことは大変遺憾であった。何はともあれ手不足の中、まずは無事式を終えることができたことを感謝中上げる。

韓国人犠牲者を追悼

旧長生炭鉱 遺族ら80人が出席
水没事故

一九四二(昭和十七)年、宇部市西岐波の旧長生炭鉱の水没事故で犠牲となった韓国人労働者の霊を慰める追悼式が三十日、現地近くの長生海岸であった。今年で八回目で、韓国から来日した韓国人遺族会の金亨洙(キム・ヒョンス)会長ら十三人と関西在住の二人の計十五人の遺族や、主催する「長生炭鉱の水非常」を歴史に刻む会(山口武信代表)の関係者ら約八十人が参加した。

式では、山口代表が「遺話した。そのあと、近くの集会所で、福岡県飯塚市の炭鉱で犠牲となった朝鮮人労働者の追悼碑建立を進めている「在日筑豊コリア強制連行犠牲者追悼碑委員会」の夏来善さんの講演会があり、用地提供を申し出た飯塚市と協力して進めている慰霊碑や記念館建設計画などを話した。



海岸から献花する韓国人遺族ら

弔 辞

冷たい風が吹きます。厳しい吹雪が吹きます

その日1942年2月3日 正にその日

お父さんは身を抉る寒さを後に

地下坑道に連入って行ったことでしょう

故郷の父母兄弟を心の中に描きながら

ところが 正にその日

お父さんは再び戻ることをできない

遠い所に行ってしまったのです

しかし その日が却って

お父さんにとっては安息と平和を

見出した日でもあったことでしょう

お父さん 愛する私のお父さん

何もできないままに

今再びこちらに訪ねてきました

愚かな息子を叱って下さい

お父さんの怒めしい一生を

どうして忘れることができましょう

しかし お父さん

可哀想な彼らをお許し下さい

あまりにも愚かで

あまりにも非人間的な彼らを

笑いながら許してやって下さい

お父さん

此処に集う人たちの声が聞こえますか

お父さんの恨みを

分ち合うために集まっています

海の彼方 故郷の地から私たちも来ています

私たちの声は弱いのです

風が吹いても 波音が聞こえても

私たちの声は掻き消されて仕舞うのです

しかし 木霊は胸奥の深いところまで

響き渡ることでしょう

こちら 宇部の地から始まった叫び声が

東京を経て故郷の地まで響き渡るまで

私たちは叫ぶのです

それは歴史の真実を物語ります

真実と正義は私たちの側にあります

明るい希望が成就する日

その日が訪れたとき 正にお父さん

安らかにお眠り下さい

日本長生炭鉱 大韓民国遺族会会員一同

来日遺族名簿

氏名	犠牲者との続柄	氏名	犠牲者との続柄
金 亨 洙	金 四 郎 の甥	崔 正 秀	崔 泰 龍 の息子
崔 泰 雄	崔 陽 海 の息子	崔 今 碩	崔 泰 龍 の娘
全 錫 虎	全 聖 道 の息子	洪 秀 淳	洪 相 大 の娘
具 甲 秀	具 守 命 の息子	韓 在 喜	洪 相 大 の息子の嫁
金 海 道	金 永 根 の息子	李 鍾 順	朴 三 冕 の息子の嫁
全 鎮 晃	金 東 煥 の息子	辺 杜 南	朴 三 冕 の息子の嫁
鄭 玉 花	張 泰 俊 の息子の嫁		

☆山口県庁訪問☆

▽県側挨拶

事故から五七年経ち、冥福をお祈りする。刻む会の活動には敬意を表する。毎年訪問をいただいているが、なかなか進展できず、もどかしいと私たちも思っている。会の運動の盛り上がりにも協力することが必要で、結果的に、それが解決の早道となると考える。不幸なことを忘れずに歴史を認識しながら親しき友人にならなければいけないと思っている

▽山口会長挨拶

遺族の方が満足いく結果を未だに出していないが、後戻りはしていない。一番望んでいることは、海岸に慰霊碑を建てることです。候補地はいろいろ上がっていますが、なかなか思うように進まない。日韓親善協会が宇部市にも遅ればせながらできた。二〇〇人の会員と有力な方々がいらっしやるので力になってもらえ

ると思う。

飯塚では強制連行の方々の慰霊堂が建てられることになった。この方々とも一緒に運動をしていきたい。県にも更なるご協力をお願いしたい。

▽遺族会会長挨拶

切なる願いを聞き、協力して下さい。今年で8年目になり、数年来要望書を出しているが未だにかなえられていない。心落ち着いて追悼式ができ、慰霊碑が建てられることを切望します。刻む会が慰霊碑を建てる土地を心配して下さいますが、県もそれ以上の協力的な活動を願います。一日も早く成就するよう協力して下さい。下さることを信じて挨拶にかえます。

▽県側意見

「刻む会」から候補地となっている市の土地のことや飯塚市の話を聞いていろいろ調べてみた。実際に候補地にも行って、宇部市とも話をし

てみた。飯塚市は市の霊園があつてその中の一部に建設するということが、条件が宇部の場合とかなり異なっているようだ。宇部市の場合は道路の代替地となっているので、その辺の展望については運動の盛り上がりにかかっていると思われる。刻む会の規模を大きくしてほしい。日韓親善協会ができたことがひとつのきっかけになるのではないか。

*今回、県のほうも実際に候補地の視察をするなど積極的な姿勢が見られました。一歩前進が見えてきた気がします。



県庁で協力要請する遺族会の人たち（右側）

1973.30 読者
遺族ら県に慰霊碑
建立で協力要請

長生炭鉱水没事故

宇部市にあった長生炭鉱で一九四二年に起きた坑道水没事故で、犠牲になった朝鮮半島出身者の遺族十三人が二十九日、県庁を訪れ、慰霊碑建立への協力を要請した。

県によると、水没事故で百八十三人が死亡し、うち百三十一人が朝鮮半島出身者だった。遺族会の金亨洙会長は「私たちの最大の願いは慰霊碑の建立。実現を信じています」とあいさ

つ。支援する市民グループ「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の山口武信代表も「計画は困難が多いが、少しずつ前に進んでいる。市民の理解も深まってきた」と述べた。

久保正人・県企画振興部参事は「みなさんの希望が実現しないことに、もどかしい思いでいる。県としても『刻む会』の活動の盛り上がりにも協力したい」と話した。

追悼碑建立への協力を求める韓国人遺族たち＝県庁で



長生炭鉱事故の犠牲者 韓国人遺族が県庁訪問 追悼碑建立に協力要望

宇部市の長生炭鉱で一九二九年二月に起きた水没事故で犠牲になった韓国人の遺族十三人が二十九日、県庁で追悼式を開く。

庁を訪れ、追悼碑建立への協力を求めた。市民グループ「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の山口武信代表も付き添った。

犠牲者百八十三人のうち、百三十五人以上が朝鮮半島の人たちだったとされる。遺族会の金亨洙会長（筆名）は「犠牲者の名前がつづられた追悼碑が建てられることを切に要望する」と述べた。父親を亡くしたという金錫虎さん（筆名）は「亡くなった人の無念さはまだ晴れないのではないかと、それが早く晴れるようにしてほしい」と話した。

応対した県企画振興部の久保正人参事は「宇部市に昨年、日韓親善協会ができたので、ひとつの大きなチャンス」と述べた。

遺族たちは沖に残る長生炭鉱のピヤ（排気・排水孔）を臨む場所を建立場所に望んでいるが、土地の取得が難航しているという。遺族たちは三十日、長生海岸で追悼式を開く。

☆宇部市訪問☆

▽健康福祉部長の挨拶

まず、市長のメッセージを代読。「五七年前の痛ましい事故により不幸にも多くの方の尊い生命が失われたことは誠に遺憾です。安全で快適な旅になりませう心からお祈りしております。」
「かまさし」と「お酒」をプレゼント。

◇部長の自己紹介

昭和一七年二月の水非常が起きた三か月後に生まれた。北朝鮮で生まれ育ち、昭和二五年八月にソウル・プサン経由で日本に引き上げてきた。韓国には山登りに何回も行った。生い立ちから言っても水非常については真剣に取り組みたいと思っている。西光寺には一八三体のご位牌がある。夏の盆や二月三日の命日にはお参りさせて頂いている。

◇宇部市の取り組んだこと

平成一〇年七月二三日、慰霊碑の発起人の井上正人さんと担当者が懇談した。情報交換、意見交換をした。亡くなられた方々の慰霊碑建立のいきさつ、土地所有者頼尊氏のことや刻む会のことについて話をした。

平成一〇年一〇月六日、井上さんを含めて当時の委員五名、地元自治会長、市民センター所長との懇談会をした。宇部市として経過と今後について説明。

慰霊碑の周りに犠牲者の名前を刻んだ碑をおくことはOKをもらった。刻む会と建立委員会のメンバーとの話し合いをしてもよいとの意向。建立委員会も市や刻む会と協力してもよいとの考えをもって。道程は長いかもしれないが皆さん方と力を合わせて努力していきたい。

◇市の基本的な考え方

慰霊碑をつくる、名前を刻む、哀悼の意を表する、歴史的事実として後世に残すことは市としても共にやっていきたい。全市民的全市民的なコンセンサスが必要。重大なことは人道的な国際親善的立場で対応しなければならぬこと。碑文の内容についても十分協議をしなければならぬ。飯塚市が市有地を無償で貸与したことも知っている。先進地を視察したいとも思っている。お話し合いの窓口はいつもあけて皆さん方をお待ちしている。

表来善苦さん講演演△云

一九四三年強制連行で日本へ。川南造船所で半年働いた。そこでは、4、5ト軍艦を月一艘つくっていた。

私は5人兄弟の長男として生まれた。お父さんが急病ですぐ帰れと手紙があったが帰国は許されなかった。脱走以外にないと思ひ、3日くらいかかって本国へ帰ったが、既に2ヶ月前にアボジは亡くなっていた。

もう何処へも行かずに一緒に暮らそうと弟達と約束したが、二日後、役所の人に来て再び日本へ行けと言ってきた。「行かない」というと、今度は警察を連れてきた。オモニは逃げろと行ったが、私が逃げたらオモニや弟達に仕打ちが来るので逃げられなかった。仕方無く再び日本へ行くことを承諾した。弟達にお金を送るからと説得したが、ずっと一緒に暮らすと約束したじゃないかといつて、弟達はきいてくれなかった。

オモニが当時は大金である五円札を持って行けといつて、私に渡したが、私がいれば、オモニや弟達の生活が困ることが分かっていいたから受け取る訳にはいかない、と返したが、オモニは持って行けという。双方ゆずらず、やりとりをした後、仕方無く私が「じゃあ半分の二円五十銭づつ分けよう」としたが、オモニは結局その二円五十銭のうち五十銭をくれて、私は三円をもらって別れた。「お前が帰ってくる所はこの家しかないよ、必ず帰っておいで」とオモニは別れ際に言った。

十月ごろ筑豊の炭鉱へ再び強制連行された。当時筑豊に四〇〇炭鉱があった。一九四四年筑豊には一五万人が強制連行されていた。私

が連行された時、八六人が一緒に国からきた。一〇畳くらいの部屋で、一〇人が生活をしたら。一畳は足袋置き、一五畳は同じ朝鮮人の監視人がいて、二十四時間監視している。窓は格子があり、トイレは監視付、朝鮮語も話せなかった。外は高い塀で出られない。二人がいなくなったが、病院へ行ったきりどうなっただかわからない。分断するために、労働者一監視人一班長、全て朝鮮人で、同じ民族同士で闘わせたのだった。

一九三七〜三八年ごろ、創氏改名。この時自殺者がたくさん出た。日本帝国主義は姓名も文字も言葉もうばった。そして、親子の愛情すら奪った。

私は日本帝国主義に報復するためにオモニからもらった三円をずっと持っていた。この炭鉱に来て、二ヶ月後の一九四三年一月二八日、また逃げた。この炭鉱は、十二時間勤務で二交代制。夜、一二時三〇分に炭鉱の中で休憩がある。昼弁当を食べて三十分間の休みにエレベーターに、ある青年が乗ったので自分も乗ってしまった。出てすぐ右に行くとボク山がある。一時から七時くらいまで走って逃げた。ある奥さんがマメタンをおこしていた。「あんた朝鮮人ですか」とハングル語で聞いてくれた。涙がスーと出た。炊事場に入れて顔を洗い、服をきれいにしてくれた。どのくらい逃げたのかと思ひ、その奥さんに今の場所を聞いてみると、あんなに走り続けたのに、炭鉱からあまり遠くに来ていなかった。ここは駅に近かったの、奥さんが汽車が来たなら教えてあげるからそれに乗って逃げなさいと言った。そして、私は汽車に乗って逃げた。

一九四五年八月十五日、筑紫で迎えた。すぐに帰ろうとしたが、朝鮮人は既に二〇〇数十万人と在日が集まっていた。船も少ない、金も無い。・・・帰れない。

在日朝鮮人六五万人。難民でも無く、移民でもない。一九一〇年から強制連行が始まった。一九一〇年当時朝鮮人は一〇〇人未満。戦後差別・人権侵害と闘ってきた。

*筑豊コリア強制連行犠牲者

納骨式追悼碑建立を！

一九九五年計画スタート。一緒に強制連行されて来た人達はどうか？死んだのならその遺骨はどうなっているか？という思いが始まり。そして、筑豊各地に放任している遺骨を収集し始めた。遺骨は一五〇体。植民地、強制連行の思いが抜けていない。一世の生き残りとしての思い。霊が迷っている。この霊を解放したい。筑豊に追悼碑が出来上がった場合、朝鮮と日本の友好親善に寄与する。過去を反省しながら二度と繰り返すことのないように。今年度中に作り上げたい（来年戦後五十五年）。

*筑豊での企業、行政との闘い

福岡県は、五市二四町一村。強制連行の中心であった飯塚市に追悼碑を建てようと考えた。日本政府と企業と一緒にすべきこと。在日とするのではなく、日本人がすべきことである。加害者の人々がすべきことである。

※当日のお話を要約して記載しています。

(文責 山内)

1999年遺族招へい追悼式カンパ会計報告

収	入	支	出
遺族招へいカンパ (15名)	681,610	遺族旅費 (13名 含ビザ代)	310,000
追悼式現地カンパ	12,600	宿泊費 (海員会館 3泊)	144,999
歓迎交流会会費	52,000	朝食代 (" 3日)	22,000
小	計	1/29夕食 (スナク焼 21名)	42,315
	746,270	1/30昼食 (敦煌 20+ 3名)	21,252
		1/31夕食 (海員会館 20名)	28,500
		2/ 1昼食 (川棚お多福 18名)	18,900
		歓迎交流会 オードル (含 Tax)	35,375
収支決算		ビール焼酎	29,950
(1999. 3. 26 現在)		料理材料費	6,000
		会場費 (観音 29, 30)	7,500
746,270 - 844,352 = ▲98,082		交流講演会会場費 (神中館)	2,000
		西光寺お礼	10,000
		喪来善さんお礼 (カンパ)	30,000
		チェーサー材料費 (松山、郷さん)	21,078
		1/31常盤公園・熱帯植物園入園料	13,265
		2/ 1川棚温泉山頭火入湯料	5,100
		遺族へのお土産代 (注・石)	11,160
		差し入れ キムチ 海苔	13,000
		通信費	23,000
		国際電話料	10,000
		振替手数料	2,300
		サンボ 帽子 脛当て (含 送料)	20,640
		フェリーターミナル使用料	7,800
		交通費 (高速道路など)	8,317
		合	計
			844,352

刻む会運動への支援のお礼と

活動資金カンパのお願い

長生炭鉱“水非常”を歴史に刻む会の運動に、何時も御理解、御支援賜わり心から感謝申し上げます。今年も1月30日、韓国より遺族13名を招いて百名近い支援者とともに追悼式を終えることが出来ました。ここに会計報告を申し上げるとともにカンパをお寄せ下さった方々にお礼を申し上げます。

刻む会は①ピーヤの保存、②追悼碑の建立、③水非常の記録の発掘を目的として活動を続けてきておりますが、この様な問題に対する壁は厚く、いまだ目的達成には至っていません。しかしそれでも当時の記録の発掘収集は着実に進められ、また犠牲者遺族の発掘については県や市の協力もあり、ある程度の成果

が得られ数年前に韓国において遺族会の結成を見るに至っています。

昨年12月には追悼碑建立の支援のために新井英一チャリティー・コンサートを実行委員会形式で行い大成功をおさめ、結果として70万円を超える寄金が寄せられ感激でした。今年は何とか活動をもう一步具体化させ、追悼碑建立のための用地確保にむけて努力をしたいと考えています。

経済情勢の大変きびしい時代ですが、一方ではガイドライン問題など私達をとりまく環境が変わろうとしている今、過去の戦争責任をきちんと考えるためにも私達の運動を一層もり上げたいと願っています。出費多端のこととは存じますが活動資金へのカンパをお願い申し上げます。(刻む会 会計担当 島)

新井英一コンサートイン宇部を
終えて

で歌ってもらうことは、韓国のある青年の問いに答えることになる。自然にそんな思いになっていった。

さて、コンサートを成功のうち

るであろう。自分は自分の交流を大切に続けていこう。そしてまた、自分のネットワークと水非常の会のネットワークが交差する時があるだろう。

大曲 信介

中略

感無量。新井英一コンサートが

年が明けて三月、山口先生から

のか

アンコールで新井英一は「さとうきび畑で」を歌い、その中で

再び、いや何度でも、新井さんに宇部で歌ってもらいたい。なぜ、なんのために、と新井さんは問う。なぜって、新井英一の歌を聞きたいから。

アンコールを歌い終えてステージ裏へ姿を消した時、こみあげるうれしさをどうしようもなく、隣の山口先生と抱き合っていた。

数年前のことだ。毎年夏に韓国

た。

中略

えた。遺骨を故郷へ帰すことは私にはできないけれど、魂が故郷へ帰ることを私は信じ祈った。それだけが自分にとって確かなことだ。

最後にもう一度、今回のコンサートに関わって下さったすべての人に感謝します。ありがとうございました。

ソウルの青年達が山口県連合青年団との交流で山口県を訪問していた。そのうちの二人が我が家にホームステイをしたとき、長生炭鉱の跡を見せに連れていったことがあった。日本語の堪能な韓国青年は、長生炭鉱水没事故の話聞き終えるとピーヤを見つめながら言った。「どうして遺体を収容して、遺族へ返さないのか。」

中略

「生きる」と言うことは生き方を交換することだ」と林尚志というイエズス会の司祭が言っている。実行委員会を積み重ねる中で、私達は生き方を交換(交感・交歓)

日韓の交流と一口に言う。その大雑把な表現を信じない。自分にとって確かなのは友人であるソウルのだれそれ、釜山のだれそれなのだ。水非常の会には会としての交流があり、また個々の友情があ

るであろう。自分は自分の交流を大切に続けていこう。そしてまた、自分のネットワークと水非常の会のネットワークが交差する時があるだろう。

そのころ新井英一の「清河への道」が筑紫哲也のニュース23のエンディングテーマで流されていたのだと思う。新井英一に宇部で歌ってもらったことは、長生炭鉱の事故で亡くなった韓国・朝鮮の方々

の魂鎮めとなる。新井英一に宇部

人達と出会えたことに感謝したい。

※コンサート実行委員会の「チングウ通信」最終号に寄せられた原稿より抜粋しました。

